

報告

災害時相互応援協定締結団体 福島被災地視察 参加報告

埼環協 事務局

2019年2月5日に締結しました災害時相互応援協定の研修の一環として、福島被災地を視察しました。この協定は、各県単組織が災害に見舞われた際に、会員組織の支援や各県単が締結している自治体との災害時協定を相互に支援する目的で締結されています。

○参加団体 ※印は協定団体 計34名

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会※	4名
一般社団法人 埼玉県環境計量協議会※	8名
一般社団法人 神奈川県環境計量協議会※	4名
一般社団法人 福島県環境測定・放射能計測協会※	7名
大阪環境測定分析事業者協会※	3名
千葉県環境計量協会	3名
東京都環境計量協議会	2名
一般社団法人福岡県環境計量証明事業協会	1名
団体外	2名

今回の意見交換会では、まだ復興が続く福島に開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館（2020年9月開館）」の見学を中心に開催しました。参加者は、予定の調整ができた協定団体のほかに自治体との協定を結んでいる県単組織を中心に参加いただきました。

スケジュールは後述のとおりで、約1日の行程でした。

「伝承館」がある福島県双葉郡双葉町までは、浪江町の「道の駅なみえ」で昼食し、地域振興の店舗を見学しました。「道の駅なみえ」は、東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響を大きく受けた浪江町の復興のシンボルとなっています。B1グランプリでゴールドグランプリに輝いた「なみえ焼そば」や請戸漁港で水揚げされた海の幸として「海鮮チラシ」や「釜揚げしらす丼」が食することができ、大堀相馬焼の展示や販売、鈴木酒造店の銘酒「磐城壽」の販売や試飲といった浪江町の産業の広報や交流の場となっています。

鈴木酒造店は、東日本大震災によって山形県長井市に移っていましたが、道の駅内に酒蔵を設置し、再び浪江町で、銘酒「磐城壽」の酒造りが始まったとのこと。





道の駅なみえ
<https://michinoeki-namie.jp/>



東日本大震災・原子力災害伝承館

「伝承館」では、東日本大震災によって福島の地は、津波と原子力発電所の事故という複数の災害であることを展示や当時の映像、インタビューなどで知ることができました。津波の規模や被災状況、そして、いまなお続く福島第一原子力発電所の廃炉（福島第二原子力発電所も同様）や中間貯蔵施設といった被災時の状況から現在の復興の様子が細かくまとめられています。

東日本大震災・原子力災害伝承館のホームページ：<https://www.fipo.or.jp/lore/>

研修スケジュール

11月18日（金）

10：00 福島駅西口バスプール出発

11：00 車中にてスケジュール確認 概要説明、説明資料配布

12：00 浪江町 道の駅なみえ 昼食と見学

13：30～15：30 東日本大震災・原子力災害伝承館

伝承館内見学、フィールドワーク（周辺被災地をバスで周遊・解説）

16：00 伝承館 出発

19：00～21：00 意見交換会（土湯温泉 水織音の宿 山水荘）

一般社団法人福島県環境測定放射能計測協会 会長挨拶

各参加団体からの参加感想

次年度担当団体の挨拶

11月19日（土） 解散

「フィールドワーク」では、「伝承館」から双葉町と浪江町をバスで周回しました。途中、児童や教師全員が避難することができ、現在は震災遺構として残る請戸小学校（見学ができますが、当日は近傍から見学）や、その避難の際にルートとして使用した大平山にある霊園、帰宅困難区域、中間貯蔵施設などをガイドの分かりやすい説明を聞きながら、被災の凄まじさを感じました。

「大平山霊園」では、慰霊碑から見える景色は、遠く先にある海までススキなどがあるだけで広く一望できますが、ここにはかつて400世帯にもなる街があったそうです。遠方に「請戸小学校」が見え、小学生たちがこの霊園まで避難し、奇跡的に無事であったお話もありました。決めていた避難ルートでは間に合わないと判断し、地元でないと知らない裏道を使って避難し、偶然に遭遇したトラックの荷台に乗せてもらい避難所まで逃げられたそうです。そして、慰霊碑があるすぐ足元まで津波は押し寄せ、このわずかな判断が生死を分けたのです。

帰宅困難区域では、家屋はあるものの当時のままで人の気配はありません。窓ガラスが割れ、野生動物の棲み家になってしまっている家屋もあるそうです。

津波による被災後に救助活動が行われました。寒く暗くなった中での捜索活動は翌日にするよう指示がありました。しかし、翌日に急な避難指示により1ヶ月できなかったとのこと。もう少し時間があればと救えた命があったと悔やまれる声も多かったそうです。

フィールドワークマップ全体図
(双葉町、浪江町)

避難指示区域の概念図(2020年9月10日時点)



- ★14:40 地震発生
 - ①14:54 浪江小→大平山に避難開始
 - ②15:35 大平山の麓に到着
 - ③16:05 大平山頂上に到着
 - ④16:30 国道6号に到着
 - ⑤16:40 運送業者の大型トラックに乗る
 - ⑥17:00 町民体育館に到着
- ※「ふるさと浪江」感想編1巻と作成





「意見交換会」では、各地の方々より参加した感想や今後の活動について意見がありました。フィールドワークのガイドさんの話にもあったのですが、緊急的な対応では、マニュアルが絶対でなく、その時の判断や人のネットワークの重要性がキーになると各参加者から感想があり、対面して会い交流することの重要性を改めて感じさせられました。

次回は、大阪で開催することで確認し、引き続きこの枠組みを継続していくことになります。

最後に、このような研修を準備や手配をして頂いた「一般社団法人福島県環境測定放射能計測協会」の皆さま、そして遠方より参加した皆さまに深く感謝申し上げます。埼環協としても、この枠組みを組織内に根付かせ、支援がしっかり機能するようにはしてまいります。